

## 第 86 回(H26 年度第 11 回)MT 委員会議事録

日時: 2015 年 3 月 18 日 10:30–11:35

場所: RIBF 棟 2F 小会議室

出席: 酒井<sup>a</sup>(委員長)、延與<sup>a,†</sup>、阿部<sup>a</sup>、福西<sup>a</sup>、上垣外<sup>a</sup>、加瀬<sup>a</sup>、久保<sup>a</sup>、宮武<sup>c</sup>、森本<sup>a</sup>、奥野<sup>a</sup>、  
櫻井<sup>a</sup>、下浦<sup>b</sup>、上野<sup>a</sup>、上坂<sup>a</sup>、若杉<sup>a</sup>、山口英<sup>b</sup>、今井<sup>d,†</sup>、羽場<sup>a,†</sup>、吉田光<sup>a,†</sup>、大津<sup>a,†</sup>、田中<sup>a,†</sup>、  
岸本<sup>a,†</sup>、吉田敦<sup>a,†</sup>、長友<sup>a,†</sup>、西村<sup>a,†</sup>、米田<sup>a</sup>

欠席: 上蓑<sup>a</sup>、本林<sup>a,†</sup>、森田<sup>a,†</sup>

<sup>a</sup>RNC / <sup>b</sup>CNS / <sup>c</sup>KEK / <sup>d</sup>RIBF-UEC / <sup>†</sup>Observer

(順不同・敬称略。以下同様)

### 【報告】

#### 1. MT 実施状況(米田)

MT の実施状況について報告があった。前回 MT 委員会以降、有償利用 MT、RI 製造 MT を実施したこと、3 月 19 日から春の SRC/BigRIPS MT に向けて <sup>238</sup>U の加速調整を開始する予定であることが報告された。

#### 2. マシンスタディ報告(福西)

加速器マシンスタディの報告があった。RRC で冷却水系統からの真空もれがあった。現状よりさらに真空悪化した場合のビームへの影響を調べる目的で、3 月 11 日午前 9 時から <sup>238</sup>U を RRC で加速し調査した。現状の真空度で RRC 加速中のビームロス は 23% でここ 1-2 年の運転では標準的な値であったため、現状の真空度であれば SRC/BigRIPS にビームを供給可能であると判断した。さらに真空度を悪化させてビームロスの変化を測定する予定であったが、RF のトラブルのため測定を断念し、午後 11 時に終了した。

#### 3. 有償利用 MT 報告(吉田敦)

3 月 2 日午前 11 時から実施した有償利用加速器マシンスタディの報告があった。<sup>7</sup>Li の 1 次ビームから CRIB で <sup>7</sup>Be の 2 次ビームを生成し、利用者の試料に照射する予定であったが、生成した 2 次ビーム強度が過去実績の 1/6 程度で、意味のある照射にならないと判断し 4 日午後 9 時に中止した。2 次ビーム生成標的として使用している H<sub>2</sub> 標的を、本来はガス循環で使用しているところを漏れがみつかったため封じきりで使用したことが原因であると考えられる。今後、標的を修理し、ビーム量をモニタする検出器を導入して、過去実績量を再現する検証実験を早期に実施し(1 日間)、その後夏までに再度有償利用 MT を 3 日間実施したいとの要求があった。

#### 4. AVF イオン源報告(長友)

AVF にイオンを供給している 18GHz 超伝導 ECR イオン源の現状報告があった。昨年 9 月に、超伝導コイルが冷えないトラブルが発生し、別のコイルと入れ替えた。11 月末に 6 極永久磁石更新もあわせて行なったが、コンプレッサー異常停止、クライストロン故障などが発生し、イオンを供給できない状態が続

いていた。2月に修理を完了し、3月のMTへ実際にdイオンを供給した。今後のMTで使用可能な状態になったことを確認した。

## 5. PAC 進捗状況(米田)

PACの進捗について、以下の報告があった。

- ・ 16th NP-PAC:(12/3 - 5の予定)  
3日間の開催とする予定。委員は半数が新委員になる。
- ・ 12th ML-PAC:(7月開催の見込み):  
メールレビューとする方向で進めている。
- ・ 4th In-PAC:次回未定。

## 【議題】

### 1. 前回議事録承認(酒井)

### 2. パラサイト実験申請

パラサイト実験の申請が1件あった。

- ・ EURICA 実験で使用する検出器(AIDA, NiGIRI)の動作確認(西村)

5月末からのEURICA実験で使用する検出器AIDA(シリコンピクセル検出器)、NiGIRI(中性子飛行時間検出器)の動作確認を、4月下旬からのSEASTAR実験でEURICAの場所に来るビーム粒子を利用してパラサイトで実施したい。SEASTAR実験では、アイソマーの確認のためEURICAを使用することになっており、SEASTARの実験に影響を与えることなく動作確認を実施することができる。2014年5月にAIDAの動作確認を同様のパラサイト実験で実施したが、ノイズが大きく有益な試験とはならなかった。今回ノイズ対策を施すと同時にBigRIPSの粒子識別情報と対応をとり、ビーム情報との相関から検出器の動作、応答を調べる。

審議の結果、パラサイト測定というよりマシンスタディであると判断し、申請を承認した。しかしながらマシンスタディ計画の書面での提出を求めた。

### 3. 次回以降MT委員会の日程

- 次回MT委員会は4/28(第4火曜日)15:00-で調整する。
- 次々回MT委員会は5/26(第4火曜日)15:00-で調整する。

(以上)